

東アジア思想論分野 The Thoughts of East Asia

古代中国における文明と自然

The Civilization and Nature on the Ancient China

教授 浅野 裕一  
Professor  
Yuichi Asano



In Ancient China, many philosophers were afraid that their civilization was in danger of collapse. Because their civilization was breaking the environment. In this field, we read the Chu bamboo manuscripts, and study about the relation between civilization to environment.



Photo.1 王朝時代の太学だった成均館大学



Photo.2 成均館大学での研究発表

2月5日に韓国に出張し、2月6日にソウルの高麗大学で開催された国際学会にゲストとして参加した。2月7日にソウル大学で開催された国際学会で、「《五行篇》の成立事情」と題する招待講演を行った。また2月8日には仁川の京仁教育大学で開催された国際学会において、「上博楚簡《君子為礼》と孔子素王説」と題して招待講演を行った。2月9日には成均館大学で開催された国際学会において、「新出土資料の発見と先秦思想史の書き換え」とのタイトルで研究発表を行い、2月11日に帰国した。韓国には新出土資料の研究者はほとんど存在しないため、郭店楚簡や上博楚簡の研究は全く行われていない。今回の一連の訪問は、韓国の学界に新出土資料研究の現状を伝える役割を果たすためのものであった。

3月10日に大阪産業大学梅田サテライトキャンパスで開催された学術講演会に参加し、中国国家文物局の胡平生氏より、清華大学が香港の文物市場から購入した戦国期の竹簡（清華簡）や、湖南省の岳麓書院がやはり香港の文物市場から購入した秦代の竹簡について、詳細な情報を得た。

8月30日に中国に出張し、9月1日に北京の清華大学を訪問し、海外の学者として初めて清華簡の実物を実見し、竹簡上に記された文字が戦国期の楚系文字であることを確認した。その後、清華大学出土文献研究と保護センターの李學勤教授や劉國忠教授と懇談し、清華簡に関する貴重な情報を得ることができた。9月4日に上海の復旦大学に新設された出土文献と古文字研究センターを訪問し、裘錫圭教授を初めとする研究グループと懇談して、今後の交流の進め方を協議した。

12月18日に筆者が組織した戦国楚簡研究会の主宰で、特別公開講演会を開催した。武漢大学教授の徐少華氏を招いて、「郭店一号楚墓年代分析」と題して講演を依頼した。

この年は『上海博物館蔵戦国楚竹書(七)』（上海古籍出版社・2008.12）の研究に取り組み、「上博楚簡『凡物流形』の全体構成」（『中国研究集刊』第48号・2009年6月）を発表した。また復旦大学出土文献と古文字研究中心網站に、2009年9月22日付けで、「上博楚簡《東大王泊旱》之災異思想」と「上博楚簡《凡物流形》之整體結構」の二本の論文を掲載した。また中国・山東大学の雑誌『文史哲』2009年第1期に論文「新出土文献と思想史的改写—兼論日本の先秦思想史研究」を発表した。



Photo.3 ソウル大学での講演



Photo.4 魯の都だった曲阜の街並